

みやぎ・復興の歩み

第一歩

2011.3.11 - 2012.3.11 ココロアルバム



みやぎ・復興の歩み 第一歩 2011.3.11-2012.3.11

ココロアルバム

Contents

宮城県知事ごあいさつ	— p.2
被災状況	— p.3
復旧復興状況（気仙沼・本吉エリア）	— p.5
復旧復興状況（石巻エリア）	— p.9
復旧復興状況（仙台沿岸エリア）	— p.13
復旧復興状況（内陸エリア）	— p.17
支援状況	— p.18
復興の歩み（年表）	— p.19
震災復興計画	— p.21
被災者支援情報	— p.22

この冊子は、東日本大震災から1年が経過した宮城の復興の様子と、被災された方々が自ら取材した復興に向けた地域の歩み（宮城県復興応援ブログ「ココロプレス」に掲載）を抜粋し、まとめたものです。

壊滅的な被害から早期復旧を遂げた仙台空港



ごあいさつ

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県はもとより日本に大きな被害をもたらした東日本大震災の発生から1年の歳月が過ぎました。

発災直後の混乱から今日に至るまで、全国の皆さまから多大なるご支援を賜りましたことに、県民を代表して、厚く御礼申し上げます。

皆さまから寄せられました救いの手と励ましの言葉は、文字どおり未曾有の大災害に見舞われ、多くの尊い命やかけがえのない大切なものを失った私たちにとりまして、何よりの支えとなりました。

お陰さまを持ちまして、道路・空港などの交通インフラやライフラインの復旧をはじめ、昨年末の県内全避難所の閉鎖など、復興への第一歩を今まさに踏み出そうとしております。

被災地では、住む家や働く場をなくし、厳しい生活を余儀なくされている方々がたくさんおりますが、その一人ひとりが、逆境に挫けることなく志を高く掲げ、生活再建と地域の復興に向け一日一日を大切に、かつ精一杯取り組んでいます。

私たちが歩む道のりは長く、険しいものとなりますが、これまで皆さまからお寄せいただいたお気持ちに応えるためにも、県民一丸となって、さまざまな困難を克服し、真の復興を成し遂げる覚悟です。

そして、私たちの取り組みが、現代社会や地域を取り巻くさまざまな課題を打開し、壊滅的な被害からの復興モデルとなるよう全力を尽くしてまいります。

この冊子には、被災地において明日に向かって頑張る方々やそれを支える方々の思い、そして取り組みが数多く綴られています。

皆さまにおかれましては、この冊子を通じて復興に向けて歩み出した宮城に暮らす方々の姿をご高覧いただきますとともに、引き続き御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



宮城県知事 村井嘉浩



東日本大震災の概況

地震により発生した巨大津波により、県内では1万人を超える死者・行方不明者が生じるとともに、沿岸部の広範囲にわたり未曾有の被害をもたらしました。内陸部においても大きな揺れが約3分間続き、電気、上下水道、ガスなどの被害が広範囲に及ぶとともに、道路、公共交通機関、通信インフラにも大きな被害を受けました。沿岸地域では従来一定の津波対策を行ってきましたが、今回の巨大津波を防ぐことはできず、壊滅的な被害を受け、最大32万人を超える被災者が避難所での生活を余儀なくされました。また、東京電力福島第一原子力発電所が津波被災し、空間に放射性物質が放出されたため、宮城県においても、放射能測定や各種検査などの対応に追われました。



(※1) 痕跡等から推定した津波の高さ(平成23年4月5日気象庁発表)
(※2) 津波観測施設の数値解析による(平成23年6月3日気象庁発表)
(※3) 参考:「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」による推定



被害の状況等(継続調査中) [平成24年3月11日現在]

(1) 人的被害

死者	9,544人
行方不明者	1,688人

全国の被害者総数の約6割に相当

(2) 住家被害

全壊	84,728棟
半壊	147,156棟

全国の被害総数の約6割に相当

(3) 避難の状況

平成23年12月30日 県内の全避難所が閉鎖

ピーク時(3/14)
1,183施設(35市町村)
320,885人

(4) ライフライン関係被害

平成23年12月11日
県内のライフラインが全て復旧
(津波で流出した地域を除く)

ピーク時	
停電	1,545,494戸
給水支障	35市町村
ガス供給支障	13市町

(5) 浸水面積

327km ²
青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の6県合計の浸水面積561km ² の約6割に相当

被害額の概要(継続調査中) [平成24年2月20日現在]

交通関係	103	鉄道、バス、離島航路
ライフライン施設	1,668	電気、水道、都市ガス、通信・放送施設
保健医療・福祉施設	508	医療機関、社会福祉施設等
建築物(住宅関係)	48,801	
民間施設等	9,629	工業関係、商業関係、自動車等
農林水産関係	12,946	
公共土木施設・交通基盤施設	12,624	道路、河川、海岸、港湾等
文教施設	1,992	公立学校、私立学校、文化財等
廃棄物処理・し尿処理施設	69	
その他の公共施設等	734	観光施設、庁舎、消防・警察関係施設等
計	89,074億円	



気仙沼 本吉エリア

気仙沼市・南三陸町



気仙沼漁港(1年後)

気仙沼・本吉エリアは、宮城県の北東部に位置し、気仙沼市、南三陸町の1市1町で構成されています。死者・行方不明者数は県内の約20%となる2,000人を超え、住家被害では、全壊・半壊合わせて14,000棟以上あるうち、全壊の割合が80%を超えるなど、壊滅的な被害を受けました。このような状況の中、気仙沼市では生鮮カツオの水揚げが15年連続で日本一を達成し、南三陸町では福興市が盛況を博すなど、復興の兆しも出始めています。「復興道路」と位置付けられた三陸縦貫自動車道の整備促進の決定や大島と本土を結ぶ大島架橋の事業着手式が行われるなど復興への確かな一歩を踏み出しました。一方で、約20,000人の被災者が住み慣れない応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅も含む。以下同じ）での生活を余儀なくされ、約193万トンの災害廃棄物処理の進捗状況は2%に満たず復興の妨げとなっています。



震災後に造られた大型漁船のお披露目式



鹿折唐桑駅周辺

気仙沼・本吉エリアの被害状況

[平成24年3月11日現在]

	地域合計	県内合計
死者	1,597人	9,544人
行方不明者	604人	1,688人
全壊	11,625棟	84,728棟
半壊	2,721棟	147,156棟

応急仮設住宅入居者数

[平成24年3月2日現在]

応急仮設住宅	14,094人
民間賃貸借上住宅	6,085人
計	20,179人

※民間賃貸借上住宅の市町村ごとの件数は、当該市町村で申請受付し入居決定した件数です。申請市町村と入居希望物件の所在市町村が異なる場合があるため、市町村ごとの現在入居件数とは異なる場合があります。

災害廃棄物処理の進捗状況(環境省HPより)

[平成24年3月5日現在]

がれき推計量(千t)	1,927
処理・処分量計(千t)	35
処理・処分割合	1.8%

※がれき推計量は、衛星画像を用いて浸水区域を特定し、これをもとに、環境省において津波により倒壊した家屋等のがれき量を推計したものです。

復興応援ブログ「ココロプレス」からの抜粋です。http://kokoropress.blogspot.com/「ココロプレス」については16ページをご覧ください。

2011年11月15日

置くだけで合格？南三陸復興シンボル「オクトパス君」(南三陸町入谷)



大きな津波被害を受けた南三陸町に、復興のシンボルが誕生しました。「ゆめ多幸鎮オクトパス君」、オクトパス(置くとパス=合格)と受験合格の縁起を担いでいます。震災直後からボランティアに入っている大学生たちの尽力もあり、再開にこぎつけました。廃校予定となっていた入谷中学校を工房として借り、スタッフ1人1人が、東北復興の願いを込めて丹念に製作しています。今や、海外メディアに取り上げられるほどの人気です。

☎ 南三陸復興ダコの会 0226-46-5153

2011年11月20日

復活!!小ヶ汐(こがしお)太鼓

(気仙沼市二ノ浜)

浦島小学校は震災で児童数が激減。学習発表会さえ開催が危ぶまれましたが、全国の支援で地元の伝統太鼓を復活させました。子どもたちによる「小ヶ汐太鼓」が、全国への感謝と地域の復興の狼煙として鳴り響きました。



2011年11月28日

お得意様が戻ってくるたびに元になります

(気仙沼市三日町)

あの日、支店は壊滅。本店の15m先まで津波が押し寄せた時も、無我夢中で従業員の安全ばかりを考えていました。「解雇した従業員を1日も早く再雇用したい!」と頑張る笑顔が、水産都市・気仙沼の元気に見えました。



乾物店大菊の吉田さん

2011年11月28日

コロちゃんコロケ! 揚げたてです~

(気仙沼市三日町)

「おいしかったよ」と足を運んでくださるお客様が励みです。今は商店街がバラバラになっていますが、いつかまた街を復活させて気仙沼の復興の力になり、気仙沼全体を盛り上げていきたいと考えています。



元気で明るい笑顔の坂本さん

2011年12月2日

3日間の生き地獄を生きて帰ってきたんだから

(気仙沼市三ノ浜)



2012年1月18日

島おとめになりませんか?

(気仙沼市大島)



「年齢は問いません。女性なら誰でも~」。観光PR事業「島おとめ」が始まりました。大島観光協会の事務所で「島おとめカード」にスタンプを3個押ししてもらっただけで、あなたも島おとめ! 椿の花は似合うかしら~?

☎ 気仙沼大島観光協会 0226-28-3000

2012年1月5日

気仙沼に「龍」現る!

(気仙沼市岩井崎)

気仙沼に今年の干支「龍」が現れました。リアス式海岸の名所「岩井崎」に降臨しました。昇り龍の如し勢いで「復興!」昨年逆境にもめげず県内の魚市場で鰹の水揚げ1位を守り抜いた、気仙沼の底力。今年も力強く進んでいきます! 気仙沼の力強い応援団がこの「龍」。夕日の時には、大きな波と砕ける波を従え、真っ赤な光を背負います。新春の海に降臨した「龍」。さあ~元気にがんばろう、気仙沼! 気仙沼が大好きです!



仮設商店街は地域の情報交換の場所に

(南三陸町)

12月13日、南三陸町歌津伊里前地区に伊里前福幸商店街が洋服屋さん・八百屋さんなど7店舗でオープンしました。「今、地域の商店街に求められているのは、話せる場所。大型店にはない、「人」のつながりの場所として、元気な商店街・元気な町を復興させていきたいです」と商店街の高橋会長。



伊里前福幸商店街



南三陸志津川福興名店街

一方、志津川地区では南三陸志津川福興名店街が2月25日に30店舗でオープン。オープン祝いには、お餅つき。「負けるな東北! 負けるな南三陸!」そんな掛け声も心にしみました。

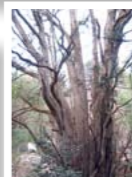
2012年1月13日

「それでも海は壊れなかった」 島山重篤さん

(気仙沼市唐桑町)

豊かな森から様々な養分が流れ込んでこそ海が豊かになると、著書「森は海の恋人」で訴えてきたカキ養殖業の島山重篤さん。

海が死んだのではないかとまで思った唐桑の海が、震災前の生産力を取り戻しています。



2012年1月13日

【短歌寄稿】 柞(ははそ)の森

(気仙沼市久保)

気仙沼の漁民による広葉樹林植林活動の有名なキャッチフレーズ「森は海の恋人」は、気仙沼在住の歌人、熊谷龍子さんの歌集の題にちなむもの。その熊谷さんが、ココロプレスのために歌を選んでくださいました。

早春の柞の森は
いま起きたばかりの森は
優しさをみす

2012年1月20日

勇壮に! 新船出港~

(気仙沼市)

2012年1月20日朝、気仙沼魚市場に勇ましい「軍艦マーチ」が流れました。色とりどりの大漁旗を棚引かせた勇壮な「第58大伸丸」は、カジキやサメなどの漁を行う19tの大目流し網漁船。大勢の市場関係者や漁師仲間さんたちが集まって祝福し、報道関係者が三浦組合長を囲んでいました。船にはたくさんの方が乗り込み黒山の人だかりです。気仙沼の漁業の大きな1歩~! おいしいお魚をたくさん獲ってくださいね~!



2011年12月7日 今年もあわび祭りを開催します！

(気仙沼市本吉町)

「震災の後、あまり魚が獲れないんですよ。直売所の店も3割くらいに減りました。道の駅は長距離運転のオアシス。早く復活させたい、地域を元気にしたい」と駅長の米倉さんは仮設の駅舎で奮闘していました。



道の駅大谷海岸にて

2011年12月14日 一歩！一歩！再海（さいかい）へ

(気仙沼市浪板)



「この壁に油の痕があるから、津波はこの高さを超えたんだと思うよ。船を造船所に引き上げるためのレールも津波によって海の中で曲がってしまいました。でも、1日でも早く漁師さんたちに仕事をしてほしいから、迷うことなく再建に取り掛かりました。「一歩！一歩！再海！」「将来にわたって、沿岸漁業を営む小型漁船の漁師のみなさんが何でも相談にきてもらえるような造船所になりたいです」鈴木さんの熱い思いがありました。

2011年12月15日 お蚕さまの宝物

(南三陸町入谷)

江戸時代から養蚕が盛だった入谷地区は山間部のため津波の被害をまぬがれました。「わあ～懐かしい・・・これも実家にあった・・・」。ここシルク館には、30年ほど前まで実家にあった風景が残されていました。



早馬神社の「鶴」。分かりますか？

2011年12月20日 おへそくきり

(気仙沼市唐桑町)

「おへそく」は「御幣束」。生活のさまざまなことがらを表した切り紙で、気仙沼では昔から神様へのお供え物・祈願として飾られてきて、神社や地域によっても内容はさまざま。おへそくは気仙沼の歴史文化の証人です。



2011年12月22日 一陽来復

(気仙沼市)

今日は冬至。気仙沼では、かぼちゃ粥をいただきます。かぼちゃ、お米、小豆、はつと、好んで雑穀（ヒエやアワ）が入ります。冬場のビタミンとカロチン不足には保存の利くかぼちゃがよかったですね。



2011年12月18日 森の学校

(気仙沼市塚沢)



気仙沼市の中山間地域にある月立小学校で1年に10回開かれてきた「森の学校」。校庭には雪が積もる季節になって再開です。地元産そば粉100%の二八そば。ソウダカツオとサバ節・煮干で作る出汁。本格的なそばです。

2011年12月21日 地元の野菜を中心に まごころも販売中です。

(気仙沼市八日町)

自分たちが作った野菜、くだもの、手作りのお惣菜を真心こめて売っています。震災で変わったしまった町並みの中の「みのり市」はオアシスの存在です。



2011年12月6日 まるでCDを聞いている ようでした。

(気仙沼市鹿折)

文科省の支援により鹿折小学校で開かれた、名古屋セントラルオーケストラの演奏会。夏休みから練習を重ねてきた6年生が「かさこじぞう」をオーケストラと競演。演奏と子どもたちの朗読がステキに響き合いました。



2011年12月14日 生きていたことが奇跡なんだよ

(気仙沼市田中前)



その一瞬の思い出を記録しておく写真の大切さを教えられました。「再開してくれてありがとう、そんな言葉をたくさんもらったよ。どんなに励まされたか。ありがたいね」その言葉の優しさで強さを元気をもらいました。

2011年12月21日 ここから立ち上がろう～ 復活への希望

(気仙沼市 魚町・南町)

たくさんのお店が軒を並べていた町は、あの日津波がみんな壊しました。ここにきて一緒に笑った笑顔・・・ここで話したことすべてがなくなりました。でも・・・人間はどんな苦境からも小さな1歩を踏み出せる生き物です。必ずまた、この場所があつた町並みが戻ってまた・・・笑顔が集えると信じています・・・「私たちの大好きな町 気仙沼。ここから・・・この環境から立ち上がると信じています。



2011年12月28日 石臼でもちつき

(気仙沼市八瀬)



石臼「べったん、お餅をべったん、雪が降る静かな山間部の野山にはもうすぐ正月の佇まいがありました。」

2011年12月28日 炭焼きと炭すご

(気仙沼市細尾)



「炭すご」とは木炭を納めるための袋。土の釜の中で10日ほどかけてじっくり焼いた炭が15kgほど入ります。気仙沼の自然の恵みを気仙沼の自然の中で作られたもので包む——究極のエコでしょうか？

2012年1月18日 気仙沼ちゃん～こんにちは

(気仙沼市大島)

気仙沼市出身で、かつて萩本欽一さん（欽ちゃん）のTV番組で一躍有名になった白幡美千子さん。飾らないその人柄はあの時のまま、笑顔いっぱい迎えていただきました。営んでいた民宿は床上まで浸水し、大規模な修繕が必要になりましたが、「いままでゆっくり休んだからね。働けるようになれば・・・また一生懸命働くの」「これからは、楽しくっさ～自分のペースで。そう思ってるの。」その笑顔の中に、「強さ」を感じました。



2012年1月18日 海にまた瓶球の筏が浮かんで 海が復活していきますように

(気仙沼市大島)



2012年1月26日 温かい笑顔が「人」を運んで れています。

(気仙沼市田中前)



地元の足として多くの人を「笑顔」で運んでいます。いつもそばにある優しい存在です

2012年1月26日 砂の上にわが恋人の名を かけば

(気仙沼市松崎)

「砂の上にわが恋人の名をかけば波のよせきてかげもとどめず」気仙沼出身の歌人落合直文の歌です。眼下の砂浜に恋心のせつなさを託したのでしょうか？



煙雲館にて

2012年1月26日 やっとあそこが通れる ようになったよ～

(気仙沼市東八幡前)

「船に壊された店の前を走りたくなくて・・・片付けて何もなくなるまでは遠回りをして今の店舗まで通ったよ。辛くて」「家族が揃って暮らせる家がない。せめて2.3年先のビジョンでも見れば・・・」



自転車販売店を営む小山富男さん

2012年1月30日 ここから再開！ここからまた

(気仙沼市古町)

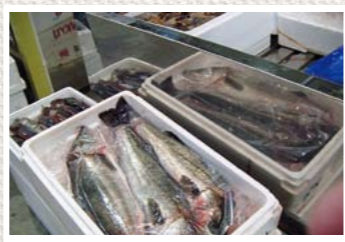
「また来たよ～」まるで自分の家にも帰ってきたように入って来る常連さん。お化粧品をしたり、おしゃべりをする。そんな震災前の「日常」を1つずつ取り戻すことに、生活に落ち着きが出てきます。



みなと薬局にて

2011年12月27日 気仙沼の年末

(気仙沼市田中)



気仙沼の年末・・・お正月に使う魚がいっぱい。震災で変わった気仙沼のお正月の風景。でもやはり魚は欠かせません

2012年2月3日 小原木たこちゃん

(気仙沼市小原木)

2011年の7月から始められた、タコのぬいぐるみ作り。全国の皆さんからの支援に対する感謝の気持ちや、被災者が元気で頑張る姿を伝えたいと始められたそうです。タコの足は8本。末広がり縁起が良いので「幸せをつかむ」。失ってもまた生えてくるので、「再生」「復興」の意味が込められています。



2012年2月5日 感謝！お客様に感謝しています。

(気仙沼市田中前)



感謝！みなさまにまたお会いできる機会をいただけて本当にうれしいです。おいしいお魚を販売しています～早く気仙沼の海のお魚をお届けしたいです

石巻エリア



石巻市・東松島市・女川町



1年目の石巻の街並(日和山より)

石巻エリアは、宮城県の東部に位置し、石巻市、東松島市、女川町の2市1町で構成されています。人的被害が県内で最も大きかった地域で、死者・行方不明者数が県内合計の50%を超え、全半壊の住家が約47,000棟に上りました。壊滅的な被害を受けた中、国内外からのさまざまなご支援に支えられ、震災前の水準には遠く及ばないものの、魚の水揚げや養殖業の再開、各地で仮設商店街がオープンするなど、復興に向けた取り組みが始まっています。また、震災を乗り越え、春の選抜高等学校野球大会に石巻工業高等学校が選ばれたことは地域の人々にとって大きな励みとなりました。一方で、約47,000人(地域の人口の約4人に1人)が応急仮設住宅で暮らし、沿岸15市町の災害廃棄物の50%以上がこのエリアに集中し、処理の進捗が7%ほどと、依然として厳しい状況が続いています。



女川魚市場 水揚げ再開の様子



石巻漁港周辺に残るがれきの山

石巻エリアの被害状況

[平成24年3月11日現在]

	地域合計	県内合計
死者	4,804人	9,544人
行方不明者	951人	1,688人
全壊	30,750棟	84,728棟
半壊	16,910棟	147,156棟

応急仮設住宅入居者数

[平成24年3月2日現在]

応急仮設住宅	24,328人
民間賃貸借上住宅	22,692人
計	47,020人

※民間賃貸借上住宅の市町村ごとの件数は、当該市町村で申請受付し入居決定した件数です。申請市町村と入居希望物件の所在市町村が異なる場合があるため、市町村ごとの現在入居件数とは異なる場合があります。

災害廃棄物処理の進捗状況(環境省HPより)

[平成24年3月5日現在]

がれき推計量(千t)	8,264
処理・処分量計(千t)	602
処理・処分割合	7.3%

※がれき推計量は、衛星画像を用いて浸水区域を特定し、これをもとに、環境省において津波により倒壊した家屋等のがれき量を推計したものです。

復興応援ブログ「ココロプレス」からの抜粋です。http://kokoropress.blogspot.com/「ココロプレス」については16ページをご覧ください。

2011年11月22日

石巻から始めまして！ そして地元の味、茶色いやきそば

(石巻市双葉町)



「地元石巻の皆さんと共に歩んだ60年」。東京屋食堂の渋谷明彦さん

2011年11月24日

復興の火種

(石巻市中央)

創業38年、オーナーの山内栄喜さんご夫婦がこの地で一から始めた「かどや精肉店」。「復興の火種になればと思って、時間をかけても、毎日一つ一つ進んで来ました。やる気一つで!!」前を向く姿勢を忘れませんでした。



2011年11月23日

正しい街づくりとおいしいお豆腐

(石巻市中央)

「津波というリスクを背負い大変ですね……という言葉をごさる方もいましたが、ここで商売ができると思うと何も大変ではありません」「物の面と心の面」の2つが成り立ってやっと復興」と、熱く語っていただきました。



「はやし屋」の林光次郎さん

2011年11月24日

地元の皆さんと一緒に街づくり

(石巻市中央)

「どんな事でも協力したいです。もし何かあれば、手伝ってほしいことをどんどん言ってきてほしいです」「地元の皆さんと一緒に街作りをしていきたいです」とっても頼れるNPO法人オンザロードのネギさんです。



2011年11月25日

ココロも体もリフレッシュ☆

(石巻市大街道東)



石巻市中里三丁目のお店は津波で被災。「お店を再開したところでまたお客様は戻って来てくれるのか」と、なかなか前向きになれませんでした。そんな時、お客さまやエステ業界の30年来の仲間から「お店の再開が待ち遠しい」という声がたくさん寄せられ、9月1日大街道東一丁目にあらためてクリスタルスタジオはオープンしました! 「エステを通じて、心身のケアをしていきたい」と、今後の目標を話していただきました。

2011年12月10日

待望の仮設商店街

(石巻市立町)

震災でお店の再開が困難になってしまった街の食品や衣料、家電、理髪店、飲食店などの21店舗が集まり、2011年12月10日、石巻市立町に「復興ふれあい商店街」がオープンしました。被災地の仮設店舗が商店街の中に作られたのは、ここ「復興ふれあい商店街」が初めて。「石巻の顔として、北上川を生かした水辺に親しむ街づくり」を目指し、新たな賑わいを全国へ発信し続けます。石巻の復興へ、ホップステップ…ジャンプ!



2011年12月16日

木のお魚に希望を込めて 小さな復興プロジェクト

(女川町)



onagawa fishのスタッフ、片倉さん

2012年2月1日

明日へと繋ぐ、獅子の舞い

(東松島市大曲浜)

地域に根付いてきた伝統文化を守り伝えようと、前進し続ける人々がいます。例年どおり1月の新春祈禱から活動をスタートさせた大曲浜獅子舞保存会は、浜への感謝と犠牲者への追悼の想いを込め、多くの住民の前で力強い演舞を行いました。「故郷はなくなってしまったけれど、そこに残ったものは、地元の人間にとって心からの拠り所」。人々が生きた証として獅子舞を後世へ繋いでいきたいと、決意を新たに今も挑戦を続けています。



2012年1月3日、大曲浜新橋で新春祈禱が行われました

2012年2月16日

“あきらめない街・石巻!! その力に俺たちはなる!!” -宮城県石巻工業高等学校-

(石巻市貞山)

ヘドロでいっぱい校舎やグラウンドを、生徒自らが積極的に清掃作業に取り組みました。第84回選抜高等学校野球大会に21世紀枠で出場!!「直志追球」をスローガンに掲げて、支えていただいた多くの方への感謝を、そして自分たちが精一杯プレーすることによって少しでも地元の方々に元気を届けることができると、野球部員一同、思いを一つにプレー。野球ができる感謝を胸に、“あきらめない街・石巻!! その力に俺たちはなる!!”



2012年2月3日

愛する地域を未来の笑顔につなげます -石巻日日新聞社-


(石巻市双葉町)

石巻市内の避難所など6カ所に張り出された手書きの壁新聞『石巻日日(ひび)新聞』。震災翌日、石巻市内が冠水している中でも石巻市役所まで情報を求めに向かい、“今必要とされている正しい情報”を伝えるため、6日間にわたり張り出されました。「石巻日日新聞社の活動は、地域があって初めて生まれるものです。これからも、地域の皆さんの一歩前に立って、地域に一途に貢献するんだという気持ちで活動していきます」と、社長の近江弘一さん。




2011年12月2日
ものを売ってくれてありがとう
(石巻市中央)

「皆様が喜んでくれた姿は忘れられません。一日でも早く本格営業を始めることで、この地域が活性化し、石巻の歴史と文化を守ることに繋がる」と、石巻市中央商店街で一番初めに営業再開させたモリヤフルーツ。



2011年12月5日
全開で全快を目指します!!
(石巻市中央)

「石巻ZENKAI商店街」……自らの手で再建への準備を進めようと、商店街の方々や声を掛け合い、石巻のもので何が出来るか考えました。“この街のコミュニティになっていきたい”とお話して下さった「京屋」奥村恵英さん。



2011年12月6日
街のお風呂場
(石巻市中央)

「たくさん被災者に心と体を温めてほしい。」
「千人風呂」の熊谷宏さん




2012年1月10日
笑顔を支えたい
(石巻市住吉)

「ボランティア支援ベース絆」は、自然と心から出る笑顔を支えたいと活動しています。1つ1つのプロジェクトを通してどれだけ引き出せるか、どれだけたくさん笑顔を支えられるか、知り合った一人一人の笑顔が見たい、という想いが繋がって始まった支援活動です。「気持ちと想い」がある限り、“ボランティア支援ベース絆”の支援活動は終わらないと、石巻復興に向けて、熱く語っていただきました。




2012年1月10日
小さなスコップから
(石巻市中央)

「小さなスコップで一すくい、また一すくい、まるで宝物を探すように片付けていったよ」毎日の積み重ね、維持していくことが後に大きな結果に繋がると「銀玉水」の岡崎耕造さんは話してくださいました。




2011年12月15日
働ける喜び
(石巻市泉町)

「心強い応援で、涙が出ました。早くにお店を再開できて、忙しくさせていただいて、本当に恵まれています」仕事を通して、人と人との繋がりに感謝し、その繋がりを大切にしていきたいと、「井上海産物店」の皆さん。




2011年12月19日
当たり前前大切な
(石巻市中央)

「何かのため、人のために生きているんだと実感した瞬間でした。そしてそれは、人としての喜びであって、当たり前のこと」普段何気なく生活していた中にこそ、生きがいがあったんだと「境菜舗」の境ご夫婦は話してくださいました。



2011年12月28日
本間ちゃんと石巻弁の魅力
(石巻市)

石巻弁とラジオ体操のコラボ「おらほのラジオ体操」でナレーションを務める「我らの本間ちゃん」こと、本間秋彦さん。石巻弁で語る沿岸部DNAと震災エピソードに、ますます本間さんのファンになることまちがいなす!




2012年1月17日
老舗『二色餅』元気に頑張っています
(石巻市泉町)

「自慢の大幅に、皆さまへの感謝の気持ちを込めて。『二色餅』の西川暖氣さん(右)、西川千代子さん」




2012年1月20日
「この世がすなわち極楽浄土」
(石巻市渡波)

人間の想像力を超えた天災……必要なのは生き抜くこと。「人を思いやる気持ちに、日本人本来の良さをあらためて強く感じました」と、法音寺の谷川ご住職。生きているうちにいっぱい良いこと、楽しいことをしましょう。




2012年1月21日
生きがいを持って生きること
(石巻市南境)

新しい街、活力のある街とは「みんなが生きがいを持って生きること」。元に戻すだけでなく、もう一度この石巻を持続可能な社会にするチャンス。地域の良さを引き立たせた街づくりに協力していきたいと、「ボランティアセンターを支援する会・山形」の押切珠喜さん。




2011年12月26日
女川町の商店街、復活の第一歩
コンテナ村商店街
(女川町)

国道398号沿い、女川町鷺神浜の高台に『女川コンテナ村商店街』があります。2011年7月1日にオープンしたこのコンテナ村には、飲食店、お花屋さん、電器屋さん、雑貨屋さんや衣料品店があります。NGOの“難民を助ける会”から提供されたコンテナハウスを利用して、被災された地元商店の方々や営業を再開しました。女川町の商店街は津波でほとんどが全壊しましたが、皆さん力を合わせて前進しています。




2011年12月30日
「支援することが自分の原動力になっている」
(石巻市渡波)

「明治大学頑張れ東北 Project」。石巻は今回で5回目です。家屋の泥掻き、支援物資の仕分けと大活躍。「ここでの経験は日々の生活の原動力」「私たちこそ助けてもらっている」と、あくまで謙虚で前向きな皆さんでした。



2012年1月22日
ココロデスクにもできることがあった
(石巻市)

「こんにちは～ お米を届けに来ました～。底冷えのする仮設住宅団地に明るく響く声。「サンライズ元気村プロジェクト」は、仮設住宅の独居高齢者を月に1度訪問して健康状態や困りごとをお尋ねし、3キログラムのお米をお届けする活動です。全国から寄せられたお米には、1袋1袋に贈ってくれた方の直筆のメッセージカードが添えられています。贈った方と受け取った方の文通も始まっているそうです。素晴らしいアイデアですね。




2012年1月24日
ヒーロー登場！
大盛り上がり誕生会
(東松島市大曲)

保育所にて、破牙神ライザー龍と子どもたち



2011年12月28日
B-1 グランプリ出場、自慢の焼きそばで石巻を盛り上げたい
(石巻市あけぼの)

2011年B-1グランプリ第6回姫路大会で6位入賞を果たした団体「石巻茶色い焼きそばアカデミー」に参加している「八鶏飯蔵」オーナーの林正徳さん。「石巻の復興と東北全体の活性化、石巻茶色い焼きそばアカデミーの目標でもある、石巻全体で盛り上げられるようなイベントをこの地で開催したい。石巻茶色い焼きそばを日本全国に広めること、それは自分の使命です」と、石巻茶色い焼きそばで、まちおこしに力を注ぎます。




2012年1月12日
今こそ、手をあげよう
(石巻市中央)

震災前を越える“全く新しい石巻”を作ろう。



2012年1月25日
震災時のコミュニティ放送局の役割ーラジオ石巻ー
(石巻市鑄銭場)

すべてのライフラインがシャットダウンされた中、唯一の情報源としてラジオ石巻は放送を続けていました。「また同じような苦しみが出てしまてはいけないので、一つ一つ検証しながら記録に残し、最新の情報を集めて発信していく役割」と、今野雅彦さん。「おらほのラジオ体操プロジェクト」に参加し、温かみとユーモアを兼ね備えた石巻弁、きっと心の強さも持ち合わせているはずと、石巻人としての誇りを話してくださいました。



詳しくは


2012年2月1日
MAGENEDO N.D.A.B.E?
“負けないよ そうだろ?”
(石巻市渡波)

一枚のTシャツ。そこには、大切な、熱い想いがたくさん詰まっています。『おおぞらロングビーチクラブ』は、『MAGENEDOT シャツ』を1,500円で販売し、製作費用を除いた半額の750円を石巻市へ寄付しています。2011年12月20日時点での合計金額は10,076,250円にものびりました。「故郷を離れていても石巻のことを忘れたことはありません。元気な石巻を取り戻すまでは、活動を続けていきます!」と、雁部恭司さん。



2012年1月1日
「是非一度お越し下さい」
(石巻市鮎川金華山)


金華山は観光立県みやぎ・南三陸金華山国定公園のシンボルです。境内ばかりが参道の復旧もままならず途方に暮れていたところに、全国からボランティアが続々と金華山に応援に来ました。瓦礫処理や泥掻き、重機を駆使して参道の地ならし、崩れた灯籠や石垣の組み直し……。ボランティアさんたちの懸命の作業のおかげで初詣の参詣者を迎えることができました。来年の巳藏御縁年祭を成功させ、復興の証としたい。



権福宜(ごんのねぎ)の日野篤志さん
初詣で大忙しの金華山金華山神社にて

2012年1月29日
身体を動かし、心をほぐす
(東松島市高松)


ストレスや感情を上手く表現できずに苦しむ人もいます。「障害者日中活動支援施設 共生園」では、集団療法の一貫としてソロダンスー岩下徹さんを招き、「非言語的交流」をテーマとしたダンスセラピーが行われました。



詳しくは

2012年1月27日
心が揺れた、雄勝中学生 GOSPEL
“あなたがいたから”
(石巻市雄勝町)

仙台在住のミュージシャン、いがり大志さんは、週に1度、雄勝中学校に通って生徒たちにゴスペルを指導しています。曲は、“あなたがいたから”。3月にはCDが発売され、生徒たちはドイツに渡って公演します。



歌う門には福きたる! 歌でスマイル!

仙台沿岸エリア

仙台市・塩竈市・名取市・多賀城市・岩沼市
亘理町・山元町・松島町・七ヶ浜町・利府町



1年後の一番町商店街(仙台市)

仙台エリアは宮城県のほぼ中央に位置し、沿岸部の市町は、仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町の5市5町で構成されています。死者・行方不明者数は3,000人を超え、160,000棟以上の住家が全半壊するなどの深刻な被害を受けました。松島周辺では地形などにより壊滅的な被害は免れ、主要産業の再開や県内で一番早い仮設住宅への入居、仮設商店街の完成など、他の沿岸地域に比べて一足早い復旧復興のスタートを切りました。仙台空港や仙台塩釜港、道路、鉄道などの交通・物流インフラもほとんどが回復し、東北六魂祭や仙台七夕まつり、光のページェントなど大きなイベントも行われ、多くの観光客に中心部の復興の姿をご覧いただきました。反面、他の沿岸地域同様、大勢の応急仮設住宅で暮らす被災者がいるほか、550万トに及ぶ膨大な震災廃棄物を処理しなければならず、県内での処理に向け最大限努力しているところですが、全国の支援を必要としている状況です。



世界の子どもたちから贈られたカレンダーを手に笑顔の園児たち



名取市関上のがれきの山

仙台沿岸エリアの被害状況

(平成24年3月11日現在)

	地域合計	県内合計
死者	3,133人	9,544人
行方不明者	125人	1,688人
全壊	41,026棟	84,728棟
半壊	119,345棟	147,156棟

応急仮設住宅入居者数

(平成24年3月2日現在)

応急仮設住宅	14,429人
民間賃貸借上住宅	37,108人
計	51,537人

※民間賃貸借上住宅の市町村ごとの件数は、当該市町村で申請受付し入居決定した件数です。申請市町村と入居希望物件の所在市町村が異なる場合があるため、市町村ごとの現在入居件数とは異なる場合があります。

災害廃棄物処理の進捗状況(環境省HPより)

(平成24年3月5日現在)

がれき推計量(千t)	5,500
処理・処分量計(千t)	273
処理・処分割合	5.0%

※がれき推計量は、衛星画像を用いて浸水区域を特定し、これをもとに、環境省において津波により倒壊した家屋等のがれき量を推計したものです。

復興応援ブログ「ココロプレス」からの抜粋です。http://kokoropress.blogspot.com/「ココロプレス」については16ページをご覧ください。

2011年11月10日

逃げてはなんねぞ

(名取市関上)

美しく健康な関上海岸の再生を目指して、名取ハマボウフウの会は全国各地の海岸で活動する市民団体と連携をしています。関上の長老の言葉「逃げてはなんねぞ」を心にしまい、代表の大橋信彦さんの活動は続きます。



2011年11月22日

神様から伝えられた藻塩で天命を生きる

(塩竈市新町)

「これからも今までどおり、淡々とやっていくだけです」とおっしゃる塩竈市港町・合同会社 顔晴れ塩竈の統括、及川さん。去年、塩竈で行われた、塩サミットの開催に尽力し、ご自身もパネラーとして参加、大盛況だったそうです。この工房では、塩竈伝来の製塩方法に基づきホンダワラ海藻を用いて製塩しています。見学にも力を入れており、大人気です。これからも、塩竈の伝統をお守りください。



塩を通じて、塩竈の歴史と伝統を伝える及川さん

2011年11月25日

マグロは日本一、お店は東洋一

(塩釜市新浜町)

塩釜水産物仲卸市場の事務局長、茂庭秀久さん。震災からの早期復旧を果たし、現在ではお客さんもかなり戻ってきているとのこと。仲卸市場として、店舗数と種類の多さでは東洋一。三陸沖や、マグロの水揚げ全国一の金華山沖などの新鮮な食材がいっぱいです。市場で旨い魚をゲット!

問 塩釜水産物仲卸市場 022-362-5518



塩釜水産物仲卸市場

2011年12月5日

こわいものなし!!

(仙台市長町)

県内の仮設住宅の中で最も早くホームページをスタートさせたのが「あすと長町」仮設住宅です。「どうせ出て行くのだからとは思わず、少しでも住み良いコミュニティの輪を広げ、仮設住民が団結して、住民の手による平和な仮設団地にしたい」と設立された「あすと長町仮設住宅運営委員会」が運営。会長の鈴木良一さんは「物がみんな無くなったので開き直った。なーんもコワイモノなしだね」と、明るく皆を引っ張っています。



2011年12月13日

松島の四季それぞれの魅力を味わって

(松島町松島)



松島観光協会専務理事 伊藤國雄さん

俳聖松尾芭蕉をも感嘆させた風光明媚な松島ですが、名産の「かき」をはじめおいしい海の幸もお忘れなく。「震災から間もなく4月27日には遊覧船が再開。観光客も50%強ほどまで回復しています。松島は四季によってまったく違う魅力をもつ町です。是非ご家族みなさんと、四季の松島を楽しんでほしいですね」と松島観光協会専務理事の伊藤國雄さん。松島のかきを食べて元気になって、松島も元気になる。素敵な循環になるといいですね。

問 (社)松島観光協会 022-354-2618

2011年12月22日

ごっつおするぞ

(山元町山寺)



津波に負けずイチゴ栽培を復活させた渡辺正俊さん

津波で家財も位牌も農機具やイチゴ栽培のハウスもすべて流されてしまった渡辺正俊さんですが、震災に負けず、ボランティアの方々の協力を得て約2カ月かけてハウスを完成させました。渡辺さんはこのハウスで初めて採れるイチゴを、これまで支援してくれたすべての方々に「ごっつお」したいそうです。「後ろばかり見ていてくさそうがないし、前を向いてやっていこう」渡辺さんから、逆に励まされました。

2012年1月6日

七ヶ浜“憩い”の商店街

(七ヶ浜町吉田浜)

2011年12月、七ヶ浜蒲田海岸から程近い高台に仮設商店街がオープンしました。7店舗が軒を連ねるここ「七の市商店街」では、誰もが気軽に立ち寄れる語らいの場・元気の発信地となるようにと、全員が奮起しています!



七の市商店街「ホシ理容室」店長の星さん

2012年3月3日

仙台空港、1年の歩み

(名取市下増田)

壊滅的な被害を受けながら、わずか6カ月という期間で復活を果たした仙台空港。今や、ターミナルビルは津波の面影を全く感じさせません。全国各地から今も応援の声が寄せられ続け、3月11日には「東北観光博×東北は負けない」と題し、復興支援ライブが開催されました。「震災による風評被害で仙台離れを感じます。仙台空港が安心して利用いただけることを、どんどんアピールしていきたい」空港ビルの職員は熱く語ってくれました。



「復旧」は終わった。次は、「復興」の番だと力を込める錦戸さん

現在の仙台空港

2011年12月2日
海への畏怖 (名取市閉上)



震災後初の海水浴場を閉上に作ります。吉田浩文さん

2011年12月9日
美しい風景とおいしいお菓子で癒されて (松島町松島)



五大堂近くの和菓子屋、「独まん」の皆さん

2011年12月12日
食べる喜び、幸せをつくるスイーツ (多賀城市町前)



「あえて頑張らずに」と、Kazunori Mulataの村田シェフ

2012年1月16日
震災をバネに (仙台市太白区)

「これからこの国を引っ張っていく自分たちの世代が、震災体験を後ろ向きに考えず、逆に震災をバネに頑張らなきゃ。」41頭中39頭の馬が津波の犠牲になった乗馬クラブベルステーブルの鈴木嘉憲さん。秋保で再開です。



2012年1月19日
僕たちは、笑顔を決めない。【smile for birthday】 (仙台市青葉区)



県内6店舗のパティスリーが作る特製ケーキ

「どんな状況になっても、どこかに必ず君の誕生日を祝おうとしてくれている人がいる」。パティスリー「九二四四」の橋浦シェフを中心に活動する【smile for birthday】プロジェクトでは、被災地で誕生日を迎える子どもたちにバースデーケーキを届けています。「一人じゃない」温もりや愛情を1台のケーキに込めて、これまでに1,700人以上を笑顔にしてきました。誰にとっても特別な1日に、人と人とを繋ぐこの温かな輪は今も広がり続けています。詳しくは |

2011年12月12日
春のような放送局 (亘理町字下小路)

「FMおおぞら」は住民の求めるのはきめ細かな情報、マスコミ情報ではカバーできません。町の片隅で話されているようなことを伝えていくことによってコミュニティが再生していくことを願っています。



2011年12月16日
和紙と墨 (仙台市青葉区)

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークは、震災後1カ月くらいから石巻、東松島、南三陸などの津波被災地に入り、個人宅の歴史資料の搬出、応急処置、保全に取り組んできました。2011年12月22日現在で、救出した資料の数は2万点を超えます。「今回の震災の経験を生かし、今後の災害に備え、復興に生かしていきたいです。昔の資料の中には現在に生きる情報として活用できるものもありますから」と、事務局長の佐藤大介さん。



2012年1月19日
ささかまぼこと音楽で元気づけよう (塩竈市藤倉)

小島蒲鉾店の小島邦雄専務。「復興ステッカーを作りました。復興市にも出店させてもらっています」営業主任の高橋英良さんは、地元「がまロック」の委員長でもあり、「音楽で復興を」と頑張っています。



「がまロック」の委員長も務める高橋さん

2012年1月21日
命のリズムをTAPに込めて! (仙台市青葉区)



国際的タップダンサー熊谷和徳さん率いる My Rhythm

2012年1月22日
ココロプレスの読者に送る、岩井俊二監督のメッセージ (仙台市)

福島第一原発の事故を機に、原発依存社会に「NO!」を叫び、エネルギー問題をさまざまな分野から提起したドキュメント映画「friends after 3.11」。この作品を作ったのは、「Love Letter」「スワロウテイル」「リリィ・シュシュのすべて」等の名作で知られる仙台出身の岩井俊二監督です。ココロプレスの読者へ送ってくださった「friends after 3.11」のシンボルマークは監督の手描きによるもの。ハートに込められた監督の想いは、是非ブログの中で。



2011年12月14日
大切な記憶にしたい (塩竈市)

「震災後の辛い時期に夢ミュージカルの仲間と再会したら絆の深さを実感しました。前を向いて、この経験を大事にしながら、忘れるのではなく、大切な記憶にしたいと思います。」メンバーの小林桂子さん。



2011年12月19日
安らぎの家 円通院 (松島町松島)



安らぎの家 円通院の副住職 天野晴華さん

名勝松島のお寺、円通院の副住職、天野晴華さん。「今年も10月下旬から紅葉ライトアップを行いました。『希望、灯す』の合言葉で、一度立ち止まって気持ちを休めてほしいという願いを込めました。被災された方々が苦しみや悲しみを乗り越えられるようこれからも傍で見守り続けていきたい」と天野さん。これからも地域の、そして、日本の光でいてください。

2012年1月23日
すべての人にアートを (仙台市)



震災後、老人福祉施設へのレクリエーションを提供し続けるダンスアーティストの千田みかさん。心とからだの専門家であるアーティストは笑顔という人間最良の美質を取り戻すために被災現場で頑張っています。

2012年1月24日
応援したい、純粋な思い (仙台市青葉区)

被災企業を直接支援できる「セキュリテ被災地応援ファンド」を立ち上げた「ファイブブリッジ」。気仙沼が大好きな1人のメンバーの企画が実現。「投資家と企業との関係はここから始まり」と語っていました。



被災した者同士、ここから再起を目指す

2011年12月19日
ヒトもココロもアナタも繋ぐ。岩沼の新しい顔。 (岩沼市吹上)

『いわぬま復興支援プロジェクト 結の会』。主に仮設などで暮らす被災者に仕事を紹介しています。「まだ他にも何かできるんじゃないかと日々考えています」と、代表理事の大塚さん。未永い支援で岩沼の復興に尽力してくださいね。



作業仲間と共に、次へのきっかけを掴む

2011年12月22日
あるがままに今日を生きる (多賀城市町前)

「イタリアンカフェ ルイパパ」、オーナーの鈴木美江子さん。被災した店を6月から再オープンした、とてもパワフルな方です。『「あるがまま」という言葉が好きですね』今を大切にしています。



元氣なオーナーの鈴木さん

2012年1月11日
自転車で日本一周、つながる感謝の輪 (仙台市宮城野区)

全国からの支援に対して、高齢にもかかわらず自転車で日本一周をして感謝の意を表した大友忠さん。昨年5月、「ありがとう宮城」のゼッケンを胸に、自転車で仙台を出発。「声が届きにくい離島、過疎地まで回りました。300人を超える方々から書きをいただき、とても感激しました。温かい支援は、必ず復興のすざいパワーとなります」感謝を表し、そしてまた励ましをいただく。とてもすてきな輪がそこにあります。



こころの支援を大切にされている大友忠さん

2012年2月2日
あかりを消そう (仙台市青葉区)

あの日の夜、停電した街の空にはまばゆい星空。その時気づいたこと。あかりのおかげで私たちは何か大事なものを失っているのでは？そこから始まった未来への記憶を残すための「311 星空プロジェクト」遠藤瑞知さん



詳しくは |

2012年2月1日
世界の子供たちをアートでつなぐココロのプロジェクト (仙台市)

震災後、海外の子どもたちから、被災地の子どもたちを励ましたいと、せんだいタウン情報「machico」へ送られてきた可愛い絵の数々。「For children By children」は、子どもたちの心をアートでつなぐ心のプロジェクトです。イタリアをはじめ世界各国へと広がるこのプロジェクトは、未来を担う子どもたちが作る復興への架け橋。世界から寄せられた絵の数々は、ポストカードやカレンダーとなって子どもだけでなく大人たちの心にも、可愛い笑顔を届けます。詳しくは |



2012年1月11日
「人助けに理由はいらねえ」 スコップ団 (仙台市青葉区)



東日本大震災で被災した友人の死を機に結成され、瓦礫除去活動を展開するスコップ団。津波被害を受けた家に積もった瓦礫や泥を、大人数の温かい仲間と共に、スコップと高圧洗浄機を駆使して一掃！ 厚い人望から圧倒的な人気を博す平了団長の元に来る賛同者は、全国2600名にも及びます。3月10日には、鎮魂の花火を2万発、天国にいる犠牲になられた方々のために打ち上げました。

詳しくは |

全国の心温まるご支援のもと、宮城が復興していく姿を、復興に向けて頑張る人々やそれを支える人々にスポットを当てながらご紹介します。詳しくは宮城県震災復興応援ブログ「ココロプレス」をご覧ください。

ココロプレス
http://kokoropress.blogspot.com/

内陸エリア



県内陸部は、5市14町1村の20の市町村からなり、津波の被害こそなかったものの、栗原市で最大震度7を記録し、死者・行方不明者の人的被害のほか、10,000棟近くの全半壊の住家被害やライフラインの寸断など、被害は甚大でした。内陸の市町村では、自らの復旧作業と平行しながらも、より被害の深刻だった沿岸部を支援するため、物資の提供や人員の派遣、避難者の受け入れなどさまざまな支援を早い段階から実施しました。震災対応として、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震の経験や教訓が生かされた地域もありました。現在、多くの内陸部市町村では、被害の爪跡を残している場所があるものの、震災前の落ち着きを取り戻しています。また、震災後も企業の進出や工場の建設などが着実に進んでおり、復興への大きな弾みとなっています。

応急仮設住宅入居者数
〔平成24年3月2日現在〕

応急仮設住宅	282人
民間賃貸借上住宅	5,148人
計	5,430人

※民間賃貸借上住宅の市町村ごとの件数は、当該市町村で申請受付し入居決定した件数です。申請市町村と入居希望物件の所在市町村が異なる場合があるため、市町村ごとの現在入居件数とは異なる場合があります。

内陸エリアの被害状況

〔平成24年3月11日現在〕

	地域合計	県内合計
死者	10人	9,544人
行方不明者	8人	1,688人
全壊	1,327棟	84,728棟
半壊	8,180棟	147,156棟

2012年1月25日
見えない敵との戦い。丸森の孤軍奮闘はこれからも続く (丸森町町西)

放射性物質の風評被害で苦しむ丸森町の観光施設『齋理屋敷』。「お客さんは6割減だけど、基本は変えません」と佐藤館長の一本芯の通った考えの背景には「力まない。なるようにしかならないから」という信念が。蔵の外壁は一部剥がれ柱も侵食されていますが、時間を掛けて修繕していくそうです。「早く福島、宮城、岩手が立ち直ってくれたらね。主要なお客さんだから」と、期待を込めて声援を送り続けています。これからも。

蔵の被害は大きい、必ず復活してくれる

2012年2月9日
みんなのよりどころ。白石城から宮城を見つめる (白石市益岡町)

白石市の中心部にそびえる『白石城』は外壁に大きな被害を受けました。「4月には通常に戻りました」と案内人の大槻さん。でも観光客はまだ、例年の5割くらいしか戻っていません。「石巻や気仙沼など沿岸部からも気晴らしに結構いらっしゃるんですよ。逆に頑張ってる、と励まされることも」。「嫌な光景を思い出させないように、言葉には配慮しています」と、心のケアも怠らない案内を目指していました。

痛々しい白石城。美しい姿に戻る事を期待

2012年2月20日
復興の先駆けに！新プロジェクト進行中！ (登米市津山町)

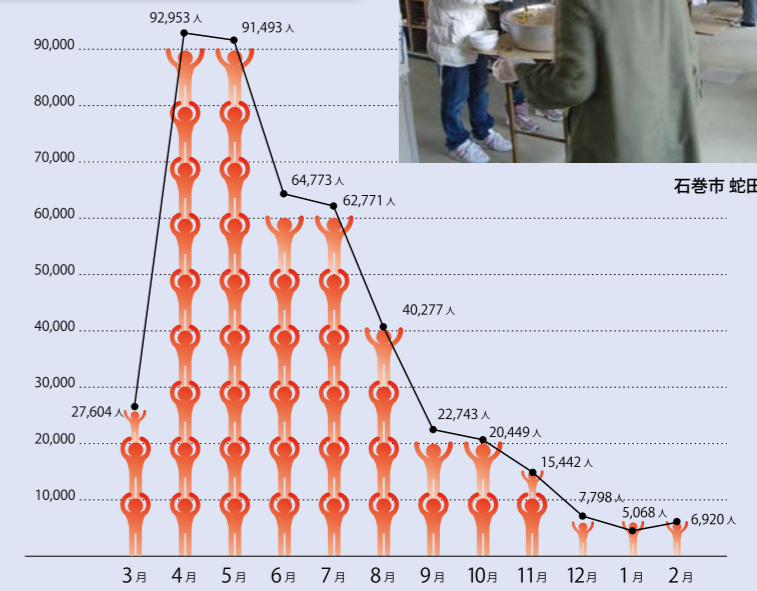
横山不動尊大徳寺を拠点に活動を続ける「被災者とNPOをつないで支える合同プロジェクト」。「被災した方が楽しみながら自立できるように」と、古着物からつくられたエコバッグ・巾着などの製造を企画しています。

支援状況

国内外から多大なる温かいご支援をいただき、宮城は復興への歩みを進めています。ここでは、その一端をご紹介します。



※宮城県内（主に沿岸部）の市区町村災害ボランティアセンターにおけるボランティア活動数（延人数）です。一部確認中のため、今後、変動する可能性があります。



寄付金 県内の災害復旧および復興事業の財源のために活用いたします。

件数	金額
6,216件	92億3360万6000円〔平成24年2月17日現在〕

義援金 被災された方々に対する生活支援のために活用いたします。

(1) 義援金受付団体※から宮城県への配分状況

①第一次配分	555億2192万円〔平成24年1月25日現在〕
②第二次配分	1152億9939万230円〔平成24年3月9日現在〕

※義援金受付団体：日本赤十字社、中央共同募金会、日本放送協会、NHK厚生文化事業団

(2) 日本政府を通じた東日本大震災義援金の宮城県への配分状況

15億6636万5000円〔平成24年1月30日現在〕

(3) 宮城県（宮城県災害対策本部）の受付状況

180,741件	246億4190万1562円〔平成24年3月9日現在〕
----------	-----------------------------

東日本大震災みやぎこども育英募金

東日本大震災による震災孤児等支援のために活用いたします。

3,035件	32億3822万9425円〔平成24年2月17日現在〕
--------	-----------------------------

詳しくは

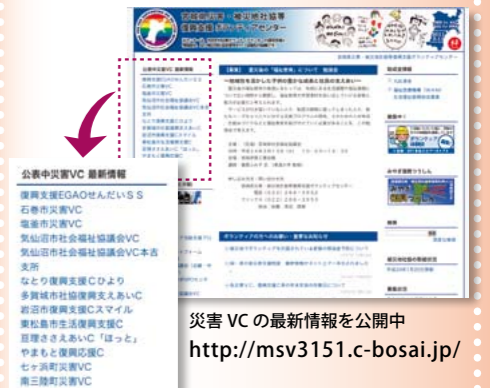
ほかにも物心両面で本当にたくさんのさまざまなご支援をいただきました。今なお被災地製品の購入やチャリティーイベント、県外避難者へのご支援など、さまざまな形でご支援いただいております。心より御礼申し上げます。

長期的・継続的なボランティア活動のお願い

被災者及び被災地域の復興のため、国内外から、多くの皆さまの災害ボランティア活動に対するご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

被災地域では、復旧活動が継続して行われておりますが、被害が甚大な地域では、今なお、ボランティアの方々のお力を必要としている状況が続いております。

これまでにご参加いただいた個人・団体・企業などの皆さま、また、今後の参加をお考えの皆さまには、このような被災地の現状をご理解いただき、長期的かつ継続的なご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



詳しくは

みやぎの復興の歩み

【2011.3～2012.3】

3月

- 11日 東日本大震災（東北地方太平洋沖地震（M9.0、最大震度7））発生「宮城県災害対策本部」設置 全市町村に災害救助法を適用
- 14日 東日本大震災の県内避難者数が最大（約32万人）に
- 24日 東北自動車道全線の交通規制が全面解除
- 27日 震災後初の5,000KL積み油輪送船が仙台塩釜港（塩釜港区）に入港以後ガソリンなど油燃料の需給環境が次第に改善



仙台空港

被災状況（被災直後）



復旧状況（2012年1月）

4月

- 7日 宮城県沖を震源とするM7.1の余震発生 栗原市・仙台市で震度6強を観測
- 11日 「宮城県震災復興基本方針（素案）」公表
- 13日 仙台空港で震災後初となる国内臨時便が就航
- 14日 塩竈市魚市場で震災後初の水揚げ
国の第1回「東日本大震災復興構想会議」開催（13回開催）
知事が委員として提言を行う
- 22日 「宮城県震災復興本部」設置
第1回「宮城県震災復興本部会議」開催（10回開催）
- 27日 天皇皇后両陛下が被災地をご訪問（南三陸町・仙台市）
- 28日 県内初の仮設住宅への入居開始（塩竈市）
- 29日 東北新幹線が全線復旧
東北楽天ゴールデンイーグルスとベガルタ仙台が本拠地開幕戦を勝利で飾る
第1回「南三陸町復興市」開催



仙台塩釜港

被災状況（被災直後）



復旧状況（2011年7月）



被災したイチゴハウス（被災直後）



市場に初出荷されたイチゴ（2011年11月）

5月

- 2日 第1回「宮城県震災復興会議」開催（4回開催）

6月

- 4日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問（岩沼市・山元町）
- 20日 「東日本大震災復興基本法」成立
- 24日 「東日本大震災復興対策本部宮城県現地対策本部」設置
- 25日 東日本大震災復興構想会議が「復興への提言」決定



JR仙台駅

被災状況（被災直後）



復旧状況（2011年4月）

7月

- 1日 「仙台・宮城【伊達な旅】復興キャンペーン」スタート
- 16日 「東北六魂祭」初開催（～17日）
- 25日 仙台空港国内定期便が再開
- 29日 国の「東日本大震災からの復興の基本方針」決定

8月

- 1日 自衛隊が県内での復興支援活動を終えて撤収
- 6日 「仙台七夕まつり」が震災後初開催（～8日）
- 10日 県内初の事業用仮設施設（しおがま・みなと復興市場）完成
- 30日 三陸沿岸道路（県内では三陸縦貫自動車道）の全ルートが決定

9月

- 5日 「宮城県サポートセンター支援事務所」開設
- 12日 「東京電力福島第一原子力発電所事故対策みやぎ県民会議」設立
- 20日 台風15号による被害が県内各地で発生（～23日）
- 25日 仙台空港ターミナルビルが完全復旧し、国際定期便（仙台－ソウル線）が再開
- 29日 知事が宮城県産の新米の安全宣言を発表
- 30日 仙台塩釜港（仙台区）で国際定期コンテナ航路（中国／韓国航路）が再開

10月

- 1日 仙台空港アクセス鉄道が全線で運行再開
- 15日 「復興へ頑張ろう！みやぎまるごとフェスティバル2011」開催（～16日）
- 17日 新北上大橋及びび定川大橋の仮橋が供用開始
- 18日 「宮城県震災復興計画」策定

11月

- 14日 「宮城県産業復興相談センター」開設
- 19日 震災後初の県産イチゴの出荷開始
- 24日 みやぎ東北高速幹線道路第1期区間が全線供用開始
- 29日 気仙沼市で生鮮カツオの今シーズンの水揚げが終了。水揚げ15年連続日本一を達成

12月

- 1日 「みやぎ心のケアセンター」開設
- 2日 「2011 SENDAI 光のページェント」が震災後初開催（～31日）
- 11日 県内のライフラインが全て復旧（津波で流出した地域を除く）
- 27日 「宮城産業復興機構」発足
- 30日 県内の全避難所が閉鎖

1月

- 4日 「みやぎ被災者聴覚障害者情報支援センター」開設
- 22日 仙台塩釜港（仙台区）で国際定期コンテナ航路（北米西岸／東南アジア航路）が再開
- 27日 「宮城県民間投資促進特区」を県内34市町村と共同申請
- 31日 「東京電力福島第一原子力発電所事故被害対策基本方針」策定

2月

- 9日 復興推進計画「宮城県民間投資促進特区」認定
- 10日 国の「復興庁」設置 県に「宮城復興局」、気仙沼市・石巻市に支所を設置
- 18日 第1回「国と宮城県の意見交換会」開催

3月

- 11日 東日本大震災発生から1年。県内各地で追悼式などが行われる



新北上大橋

被災状況（被災直後）



復旧状況（2011年10月）



塩竈市魚市場

被災状況（被災直後）



復旧状況（2011年4月）



避難所の様子（被災直後）



仮設住宅の様子（2012年1月）



東北六魂祭（2011年7月）



仙台七夕（2011年8月）



光のページェント（2011年12月）

宮城県震災復興計画

宮城県では大震災からの復興の指針として、平成 23 年 10 月に「宮城県震災復興計画」を策定しました。

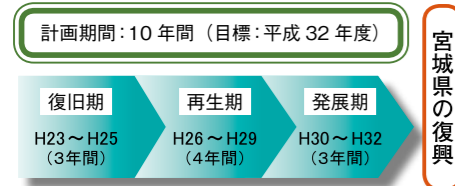
[1] 策定の趣旨

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震により、甚大な被害を被った本県の今後 10 年間における復興の道筋を示すため、「宮城県震災復興計画」を策定することとしました。復興を成し遂げるには、従来とは異なる新たな制度設計や手法を取り入れることが不可欠であるため、宮城県震災復興計画は「提案型」の計画としています。

[3] 基本的な考え方

(1) 計画期間

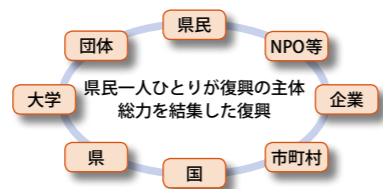
復興を達成するまでの期間をおおむね 10 年間とし、平成 32 年度を復興の目標に定め、その計画期間を「復旧期」、「再生期」、「発展期」の 3 期に区分します。特に、復旧期の段階から、再生期・発展期に実を結ぶための復興の「種」をまき、ふるさと宮城の復興に結びつけます。



宮城県の復興

(2) 復興の主体

県民一人ひとりが復興の主体であり、多様な活動主体が、「絆」という人と人との結びつきを核に、復興に向けて取り組むことが必要です。行政は、民間をはじめ様々な主体による復興に向けた活動を全力でサポートする体制を構築します。



(3) 対象地域

県内全域を計画の対象とし、特に、沿岸被災市町は重点的に取り組むエリアとします。

(4) 進行管理

PDCA サイクルのマネジメント手法により、事業の達成状況等について評価を行い、その結果を具体的な復興の取組に反映します。また、社会情勢の変化などに対応できるよう、必要に応じて計画について見直しを行います。

[4] 緊急重点事項

- 被災者の生活支援
- 公共土木施設とライフラインの早期復旧
- 被災市町村の行政機能の回復
- 災害廃棄物の処理
- 教育環境の確保
- 保健・医療・福祉の確保
- 雇用・生活資金の確保
- 農林水産業の初期復興
- 商工業の復興
- 安全・安心な地域社会の再構築
- 原子力災害等への対応

[5] 復興のポイント

- 災害に強いまちづくり宮城モデルの構築
- 水産県みやぎの復興
- 先進的な農林業の構築
- ものづくり産業の早期復興による「富県宮城の実現」
- 多様な魅力を持つみやぎの観光の再生
- 地域を包括する保健・医療・福祉の再構築
- 再生可能なエネルギーを活用したエコタウンの形成
- 災害に強い県土・国土づくりの推進
- 未来を担う人材の育成
- 復興を支える財源・制度・連携体制の構築

[6] 分野別復興の方向性

- 環境・生活・衛生・廃棄物
- 保健・医療・福祉
- 経済・商工・観光・雇用
- 農業・林業・水産業
- 公共土木施設
- 教育
- 防災・安全・安心

[7] 沿岸被災市町・県全体の復興のイメージ

[8] 県の行財政運営の基本方針

詳しくは

被災者支援情報

■各都道府県の被災者受入態勢について（平成 24 年 3 月 7 日現在）（総務省 HP 等より）

都道府県名	窓口	電話番号
北海道	道外被災者支援対策本部	011-204-5800
青森県	青森県生活再建・産業復興局	017-734-9580
岩手県	支援内容に応じて受付	019-651-3111(代)
秋田県	災害対策本部 被災者受入支援チーム	018-860-4505
山形県	広域支援対策本部避難者支援班	023-625-1605
福島県	支援内容に応じて受付	024-521-1111(代)
茨城県	災害対策本部避難対策班	029-301-6735
栃木県	東日本大震災による避難生活者のためのワンストップ電話相談窓口	028-623-0618
群馬県	避難者受入れ支援センター	0270-26-9420
埼玉県	福祉部 福祉監査課	048-830-3440
千葉県	報道広報課広聴室内	043-223-3411
東京都	都市整備局住宅政策推進部不動産課	0120-918-338
神奈川県	安全防災局 危機管理部 災害対策課	045-210-5970
新潟県	情報収集班	025-282-1728
富山県	防災・危機管理課	076-444-3187
石川県	土木部建築住宅課／観光交流局観光推進課	076-225-1777/-1542
福井県	危機対策・防災課	0776-20-0308
山梨県	知事政策局東日本大震災支援対策室	055-223-1519
長野県	避難者受入支援チーム	026-235-7407
岐阜県	災害支援対策本部	058-272-1034
静岡県	被災者受入相談センター	054-221-2527
愛知県	東部被災者受入相談センター	055-951-8205
三重県	政策部政策総務室	059-224-2640
滋賀県	健康福祉部 健康福祉政策課	077-528-3519
京都府	災害支援対策本部	017-414-5930
大阪府	被災者生活相談窓口	06-6210-9290
兵庫県	災害対策支援本部事務局	078-362-9886
奈良県	支援内容に応じて受付	0742-22-1101(代)
和歌山県	支援内容に応じて受付	073-432-4111(代)
鳥取県	東北地方太平洋沖地震災害支援対策本部	0857-26-7277
島根県	土木部建築住宅課住宅管理グループ	0852-22-5569
岡山県	被災者住宅支援相談窓口	086-226-7917
広島県	総合相談窓口（広島県危機管理センター）	082-513-5897
山口県	健康福祉部厚政課（地域保健福祉班）	083-933-2724
徳島県	教育委員会福利厚生課／企画総務部職員厚生課	088-621-3178/-2046
香川県	被災者受入総合相談窓口	087-832-3808
愛媛県	建築住宅課公営住宅係	089-912-2759
高知県	県庁住宅課	088-823-9855
福岡県	被災者住宅支援窓口	092-643-3729
佐賀県	被災者受入支援チーム	0952-25-7385
長崎県	市町振興課	095-895-2133
熊本県	熊本県総務部総務事務センター	096-333-2760
大分県	被災者受入対策室	097-506-2591
宮崎県	危機管理課	0985-26-7618
鹿児島県	危機管理局	099-286-2268
沖縄県	知事公室防災危機管理課（被災者受入相談窓口）	090-3790-0137

全国の心温まる御支援に心より感謝申し上げます。

宮城県ホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/>

宮城県の東日本大震災に関する情報を随時更新し発信しています。



生活関連、しごと、相談窓口、住居など分野別に案内しています。

詳しくは

震災復興推進課ホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/fukusui/>

宮城県の震災復興に関する情報を随時更新し発信しています。



「みやぎ被災者生活支援ガイドブック」も課ホームページにて閲覧・ダウンロードできます。

詳しくは

■宮城県・県内市町村の問い合わせ先一覧

市町村名	代表電話番号
宮城県	022-211-2111
仙台市	022-261-1111
-青葉区	022-225-7211
-宮城野区	022-291-2111
-若林区	022-282-1111
-太白区	022-247-1111
-泉区	022-372-3111
石巻市	0225-95-1111
塩竈市	022-364-1111
気仙沼市	0226-22-6600
白石市	0224-25-2111
名取市	022-384-2111
角田市	0224-63-2111
多賀城市	022-368-1141
岩沼市	0223-22-1111
登米市	0220-22-2111
栗原市	0228-22-1122
東松島市	0225-82-1111
大崎市	0229-23-2111
蔵王町	0224-33-2211
七ヶ宿町	0224-37-2111
大河原町	0224-53-2111
村田町	0224-83-2111
柴田町	0224-55-2111
川崎町	0224-84-2111
丸森町	0224-72-2111
亘理町	0223-34-1111
山元町	0223-37-1111
松島町	022-354-5701
七ヶ浜町	022-357-2111
利府町	022-767-2111
大和町	022-345-1111
大郷町	022-359-3111
富谷町	022-358-3111
大衡村	022-345-5111
色麻町	0229-65-2111
加美町	0229-63-3111
涌谷町	0229-43-2111
美里町	0229-33-2111
女川町	0225-54-3131
南三陸町	0226-46-2600

県内市町震災復興計画

県内 19 市町においても、地域の实情に応じて震災復興計画を策定しました。

■沿岸部市町

市町	震災復興計画	策定時期
気仙沼市	気仙沼市震災復興計画	2011.10.7
南三陸町	南三陸町震災復興計画	2011.12.26
石巻市	石巻市震災復興基本計画	2011.12.22
女川町	女川町復興計画	2011.9月
東松島市	東松島市復興まちづくり計画	2011.12.26
松島町	松島町震災復興計画	2011.12.28
利府町	利府町震災復興計画	2011.12.26
塩竈市	塩竈市震災復興計画	2011.12.2
多賀城市	多賀城市震災復興計画	2011.12.21
七ヶ浜町	七ヶ浜町震災復興計画	2011.11.8

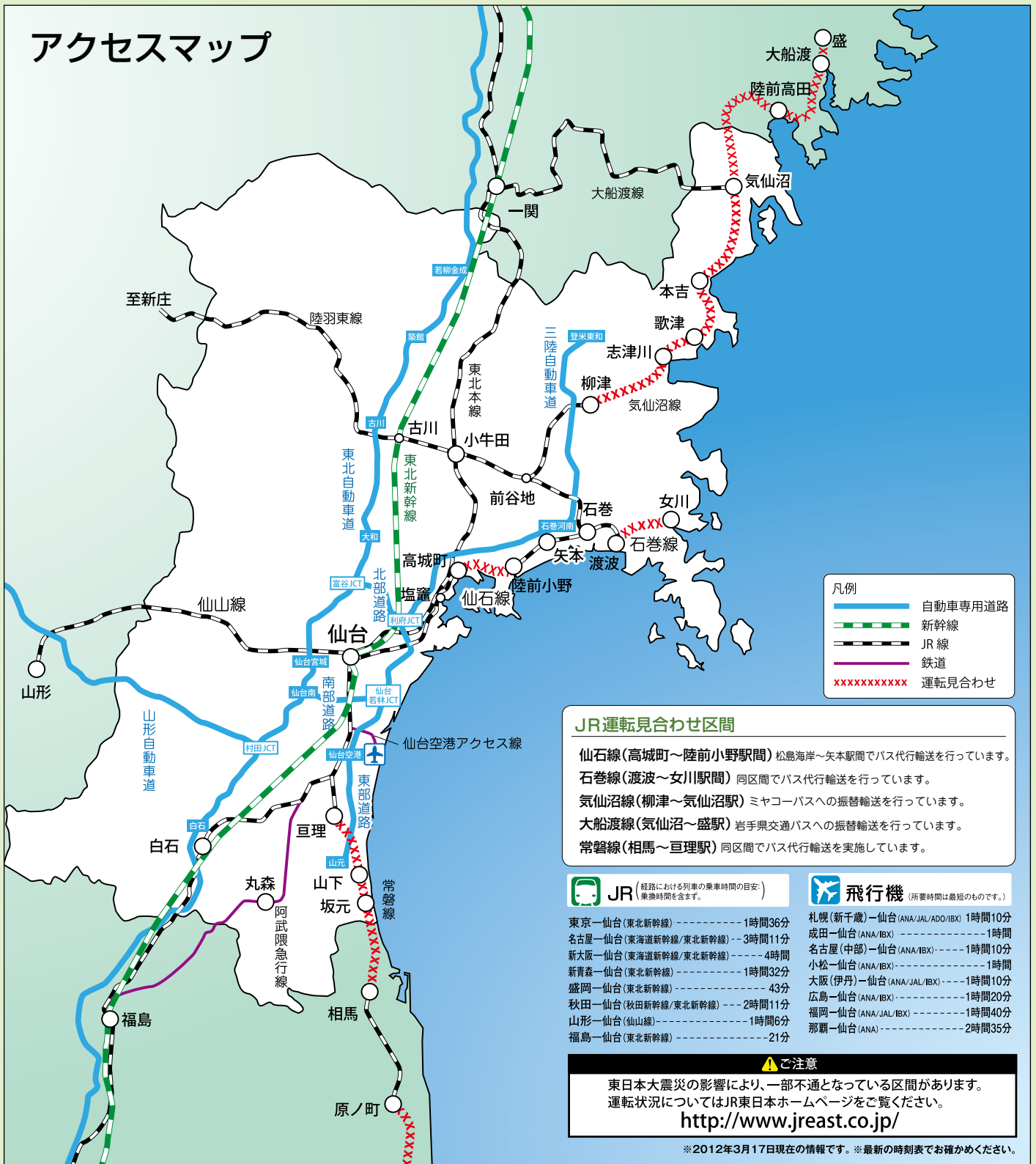
市町	震災復興計画	策定時期
仙台市	仙台市震災復興計画	2011.11.30
名取市	名取市震災復興計画	2011.10月
岩沼市	岩沼市震災復興計画グランドデザイン	2011.8.7
亘理町	亘理町震災復興計画	2011.12.16
山元町	山元町震災復興計画	2011.12.26

■内陸部市町

市町	震災復興計画	策定時期
大崎市	大崎市震災復興計画	2011.10月
登米市	登米市震災復興計画	2011.12.14
白石市	白石市東日本大震災復興計画	2011.9.30
角田市	角田市震災復興・復興基本計画	2011.8.25

詳しくは

アクセスマップ



凡例

- 自動車専用道路
- 新幹線
- JR線
- 鉄道
- 運転見合わせ

JR運転見合わせ区間

仙石線(高城町～陸前小野駅間) 松島海岸～矢本駅間でバス代行輸送を行っています。
 石巻線(渡波～女川駅間) 同区間でバス代行輸送を行っています。
 気仙沼線(柳津～気仙沼駅) ミヤコーバスへの振替輸送を行っています。
 大船渡線(気仙沼～盛駅) 岩手県交通バスへの振替輸送を行っています。
 常磐線(相馬～亶理駅) 同区間でバス代行輸送を実施しています。

JR	飛行機
東京～仙台(東北新幹線) ----- 1時間36分	札幌(新千歳)～仙台(ANA/JAL/ADO/IBX) 1時間10分
名古屋～仙台(東海道新幹線/東北新幹線) -- 3時間11分	成田～仙台(ANA/IBX) ----- 1時間
新大阪～仙台(東海道新幹線/東北新幹線) ----- 4時間	名古屋(中部)～仙台(ANA/IBX) ----- 1時間10分
新青森～仙台(東北新幹線) ----- 1時間32分	小松～仙台(ANA/IBX) ----- 1時間
盛岡～仙台(東北新幹線) ----- 43分	大坂(伊丹)～仙台(ANA/JAL/IBX) ----- 1時間10分
秋田～仙台(秋田新幹線/東北新幹線) --- 2時間11分	広島～仙台(ANA/IBX) ----- 1時間20分
山形～仙台(仙山線) ----- 1時間6分	福岡～仙台(ANA/JAL/IBX) ----- 1時間40分
福島～仙台(東北新幹線) ----- 21分	那覇～仙台(ANA) ----- 2時間35分

⚠️ ご注意

東日本大震災の影響により、一部不通となっている区間があります。
 運転状況についてはJR東日本ホームページをご覧ください。
<http://www.jreast.co.jp/>

※2012年3月17日現在の情報です。※最新の時刻表でお確かめください。



復興の最前線・宮城に是非お越しく下さい。

宮城県観光PRキャラクター
むすび丸

発行：平成 24 年 3 月

宮城県震災復興・企画部 震災復興推進課
 〒 980-8570
 仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号
 TEL : 022-211-2408 FAX : 022-211-2493
 E-mail fukusui@pref.miyagi.jp URL <http://www.pref.miyagi.jp/fukusui/>